

仏教保育

2
Feb.

伝えよう いのち 生命の尊さ ほとけ の心



「教育・保育の担い手としての理念ゆるがず!!」

第8回理事会／第6回運営審議委員会／平成26年度第2回仏教保育研修会

平成27年1月20日／大本山増上寺・光摂殿

公益社団法人日本仏教保育協会（緑谷一雄理事長）は1月20日、大本山増上寺・光摂殿において標記の会を開催しました。

「子ども・子育て支援新制度」のスタートも間近に迫ってきました。認定こども園移行後の不安を抱く施設も多いようですが、仏教園の教育・保育の理念は揺るぎなく、「平成27年度事業計画（案）」「平成27年度収支予算（案）」等の上程議案は全員の挙手によって採択されました。続く「仏教保育研修会」は国吉榮先生（白百合女子大学非常勤講師）による「わが国における近代保育の始まり」というテーマの講演。欧州滞在中に見聞した、フレーベル教育を活かす幼稚園教育を日本に導入した「関信三氏」の幼児教育論について話してくださいました。関氏は、日本初の幼稚園（現・お茶の水女子大学附属幼稚園）を創立して初代監事（園長）を務め、保育内容の質的かつ実践的な手引書を作り、幼児教育に大きく寄与したことでも知られている先生です。（要旨は6・7ページ）

理事会 運営審議委員会

はじめに、緑谷一雄理事長の主導で三婦依文を斉唱。続いて同理事長から「認定こども園の施設が21園も返上されたという新聞記事を読みました。減収にはならないよう配慮すると政府は公表しているが、減収になら

ないという保障はないとの判断で返上しようです。しかし制度がどのように変わろうと、われわれ仏教園が教育・保育の主たる担い手であることに変わりはないのです。そのことを念頭において慎重に対処して欲しいと思います」と冒頭で語り、京都大会では1000名余の先生方が参集されたお礼と、「大会の盛会は、一重に実行委員の先



乾杯・安藤先生



司会・五島先生



林 久美子
参議院議員



鳩山邦夫
衆議院議員



懇親会 風景



生方の京都ならではのこだわりによる熱意と企画、ご努力によるものであります」と、改めて感謝の意を述べられました。また、「次回は福島で」とお引き受けくださった福島大会に触れ、原発事故を乗り越えてのご英断に心から感謝申し上げると共に、大勢の参加を呼び掛けられました。

この後、五島満事務局長から理事会・運営審議委員会の両会とも成立する旨、報告し、審議に入りました。

上程議案は次の通りです。

- 1 第1号議案 平成26年度収支補正予算(案)
- 2 第2号議案 平成27年度事業計画(案)
- 3 第3号議案 平成27年度収支予算(案)

4 第4号議案 その他

第1号議案から第3号議案については所管する担当常任理事から上程され、いずれも全員の挙手によって承認されました。第4号議案については高山久照常任理事より、11月18日から25日までの8日間の旅程で、印度山日本寺開山40周年、光明施療院30周年記念法要に日仏保を代表して参加すると共に、インド菩提樹学園を訪問、世界遺産タージマール見学の旅を引率してきたことが報告されました(12月号/No.608に報告記事記載)。

その後、第33回全国仏教保育京都大会の実行委員長を務められた日野昭文先生から、第32回福岡大会の折、上村映雄先生(元理事長)から「そろそろどうかね。京都でやってくれないか」と声をかけられ、お引き受けした。第31回栃木大会の気負いのない、地元の環境に即した大会に感動したことを思い、それらを念頭に置きながら、幼保のそれぞれの組織が一体となつて京都らしさを味わって頂けるよう企画したことなど、エピソード交えながら大会開催までの経緯について語られました。

続いて、吉岡棟憲先生(福島県仏教保育協会会長/日仏保理

事/福島ルンビニー幼稚園園長)から、「福島では、原発事故による他県への移住、入園取り止めなど500名余にのぼり、園運営は今も困窮しています」と窮状を話され、京都大会で名誉ある『古屋賞』を授与されたことへの感謝・返礼の思いもあつて福島での大会をお引き受けした。併せて、皆さんに頑張っている福島を見て頂きたいと思い、大会開催を決意されたと言われました。その後、宮城の鎌田文恵先生(おたまや幼稚園)から、3・11の大地震・津波の折の日仏保からの手厚い支援に勇気を得たことなどを述べ、改めて感謝の言葉がありました。

小憩の後「仏教保育研修会」を開催。80名余の先生が参加し、幼稚園教育の始まりの講話を熱心に傾聴していました。

新年懇親会

増上寺に隣接するザ・プリンスタワー東京を会場に、鳩山邦夫衆議院議員(仏教保育振興国会議員懇話会会長)や林久美子参議院議員をはじめとするたくさんの議員秘書の方々、関係団体、各宗派保連、加盟園等合わせて100名近い先生方の参加を得て、恒例の新年懇親会が開催されました。

日仏保名誉会長・八木季生台下(大本山増上寺法主)は所要のためご参加できなくなり、たので、緑谷理事長の挨拶のあと、衆議院議員の鳩山邦夫先生から「人間の根幹は6歳までに育つと言います。なかでも仏教の教えに基づいた保育は日本人として恥じない人間性を育てる最初の教育の場であります。我々はこれからも思いやりのある子ども育成のために、仏教保育振興に力を注ぎます」と、嬉しいお言葉を頂きました。

続く、参議院議員・林久美子先生からは「日本の未来を託す子どもたちを生命尊重という仏教の教えを基に温かく育てて頂いていることに心から感謝申し上げます」と冒頭に述べられてから、日本の幼児教育の大切さ、そのための予算も含めた子ども育成支援など、力強く語られました。

続いて安藤文隆先生(日仏保理事)のご発声で乾杯し、歓談となりました。歓談の折々に司会者の指名で関係団体、宗派保連の先生方や関係者の方々の挨拶が続くなか、あちらこちらで和やかな懇談の風景も続いています。



平成27年度事業計画(案)

基本方針

生命尊重の保育確立と心の教育の推進

1 生命尊重の保育推進

心の教育「いかせいのち」の保育の充実・普及を図る

2 活力ある日仏保

財政の確立を図り会員による会員のための安定した運営基盤の確立

3 魅力ある日仏保

日仏保研究所を中心として魅力ある研修会等をおして会員及び後継者の期待に添う日仏保の確立

4 国際交流・社会貢献のできる日仏保

生命尊重保育の普及・インド菩提樹学園・ユニセフ支援等国際交流・社会貢献を実践する

1. 生命尊重の保育推進を図る国民運動の展開

- (1) 生命尊重の保育推進のための実践・普及活動(募金運動)
- (2) 財政確立のための振興活動
- (3) 生命尊重の集い及び講習会・研修会等の推進
- (4) 生命尊重の保育に関する参考資料の編集刊行

2. 調査・研究

- (1) 仏教保育にかかわる調査・研究(仏教保育史等)
- (2) 仏教保育研究所(講師団・所員の充実)
- (3) 仏教教育研究会の開催

3. 現職教育

- (1) 中央講習会
- ア. 第83回夏期仏教保育講習会 7月22日(水)・23日(木) 増上寺・光摂殿
- イ. 第60回仏教保育関西地区研修会 講習会・ゼミナール等の開催 促進

4. 指導者養成

- (1) 平成27年度第1回仏教保育研修会 6月総会時
- (2) 平成27年度第2回仏教保育研修会 1月中旬
- (3) 養成機関連絡協議会 2月下旬

5. 編集・刊行

- (1) 機関紙「仏教保育」 月刊 園長・教職員対象
- (2) 「仏教保育カリキュラム」 月刊 教職員対象
- (3) 「ほとけの子」 月刊 父母対象(宣協社)
- (4) 仏教保育教材の編集・監修

1. 「こどものくに」ひまわり版

月刊 年長児対象 (すずき出版)

「わたしの記録」ひまわり版 一斉購読の園に贈呈

2. 「こどものくに」チュリーツプ版

月刊 年中児対象 (すずき出版)

3. 「こどものくに」たんぼぼ版

月刊 年少児対象 (すずき出版)

4. 出席カード 園児対象

(フレイベル館) 園児対象

5. なつのえほん 園児対象

(すずき出版) ともだちいっばいうれしいな 新入園児対象(すずき出版)

6. 仏教保育紙芝居

その他必要な教材 「写真ニュース」「日仏保のポスター」の発行 父母・教職員対象

6. 関係団体との連絡提携

- (1) 仏教各団体・他宗教団体との連絡
- (2) 各私立・各宗保育団体との連絡

(3) 地方組織との連携強化及び育成指導

(4) 保育関係企業との連絡 (鈴木出版・宣協社・フレイベル館・チャイルド本社・ひまわりのくに・世界文化社・学研教育みらい・ジャクエツ・エフコーポレーション等)

7. 保育制度対策の活動強化

- (1) 幼保加盟施設の運営・経営の調査・研究
- (2) 保育制度研究会(全国制度対策委員会)
- (3) 仏教保育振興国会議員懇話会との連絡強化

8. 国際交流・社会貢献の実践

- (1) 国際文化交流等と社会貢献(災害救援を含む)を積極的に推進
- (2) インド菩提樹学園の育成協力委員会
- ア 菩提樹学園訪問指導・運営
- イ 運営基金の管理運用
- ウ 運営及び育成指導への協力
- (3) オメツップ(OMEP)に協力

9. 奨励事業

- (1) 日本仏教保育協会賞 本年度養成機関卒業生
- (2) 仏教保育功労賞 仏教保育実践に功労のあった個人で、適任者がいる年度のみ授与

10. その他必要な事業

- (1) 会員加入促進運動
- (2) 奉祝花まつり・暑中見舞広告・成道会等の協賛広告
- (3) 各種出版物、教材の開発・販売推進(重点教材・出版物「こどものくに」「ほとけの子」ホームページの充実 その他
- (4) 「仏教保育なるほど12か月」
- (5) 「改訂わかりやすい仏教保育総論」「ポップアップ絵本おしゃかさま」「新選ジャータカ絵本全5巻」「こどものくに別冊 新・新仏教説話紙芝居」の普及促進

以上

「養成機関連絡協議会」開催のお知らせ

日時 平成27年2月23日(月) 16時〜17時30分

会場 芝パークホテル 本館2階「桜」

テーマ 「保育新制度と仏教保育」



平成26年度 収支補正予算

 自 平成26年4月1日
 至 平成27年3月31日

I 収入の部

(単位:円)

大・中・小科目	当初予算額(A)	補正予算額(B)	増減(A-B)	備 考
基本財産運用収入				
基本財産利息収入	385,000	385,000	0	
社団基金利息収入	200,000	200,000	0	元金45,355,000円
菩提樹学園利息収入	180,000	180,000	0	元金32,100,000円
持田基金利息収入	1,000	1,000	0	元金800,000円
古屋基金利息収入	4,000	4,000	0	元金5,400,000円
入会金収入	10,000	10,000	0	2園
会費収入	25,300,000	25,300,000	0	23,000×1,100施設
事業収入				
出版収入	14,010,000	14,010,000	0	
こどものくに収入	1,530,000	1,530,000	0	51,000×2.50×12
ほとけの子収入	5,280,000	5,280,000	0	40,000×11×12
仏教保育カリキュラム	7,200,000	7,200,000	0	購読料 1,200部
刊行物監修	2,230,000	2,229,650	350	
こどものくに編集	280,000	280,000	0	
出席カード印税	350,000	349,650	350	フレーベル仏保版出席カード
保育教材ロイヤリティ	1,600,000	1,600,000	0	夏の絵本、合掌人形、上製本等
その他編監修料	0	0	0	
受講料収入	2,000,000	2,000,000	0	
中央講習会受講料	2,000,000	1,576,800	423,200	146名×10,500
社会貢献・国際交流(生命尊重)	4,000,000	4,500,000	△ 500,000	
生命尊重募金	4,000,000	4,500,000	△ 500,000	
義 援 金	1,000,000	1,000,000	0	
補助金収入				
助成金収入	4,000,000	4,000,000	0	
年度・制度対策助成金	4,000,000	4,000,000	0	宗派・本山よりの助成金
寄付金収入	550,000	550,000	0	鈴木出版25 保育教材6社30
雑 収 入	7,605,000	7,605,000	0	
運用利息収入	5,000	5,000	0	
協賛金収入	1,000,000	1,000,000	0	協賛金
広告収入	5,000,000	5,000,000	0	仏カリ他広告収入
その他の雑収入	1,600,000	1,600,000	0	5月・1月懇親会費 関西地区連絡協議会懇親会費 養成機関連絡協議会懇親会費
特定預金取崩	0	0	0	
取崩収入	0	0	0	
前期繰越	108,423,488	119,419,277	△ 10,995,789	
合 計	169,513,488	180,585,727	△ 11,072,239	

II 支出の部

大・中・小科目	当初予算額(A)	補正予算額(B)	増減(A-B)	備 考
事業費				
人件費	0	0	0	
臨時雇賃金等	0	0	0	事業のための臨時雇
調査研究費	200,000	200,000	0	
研究運営費	200,000	200,000	0	
教育研究奨励費	650,000	690,000	△ 40,000	
教育研究会補助	150,000	150,000	0	東仏保ゼミ補助
古屋・持田賞	200,000	200,000	0	全国大会開催年
仏教保育功労賞	50,000	50,000	0	賞状、記念品
研究発表指定園	200,000	240,000	△ 40,000	全国大会開催年
仏教保育精励賞	50,000	50,000	0	全国大会開催年
菩提樹学園充実	800,000	500,000	300,000	
学園視察派遣旅費	600,000	300,000	300,000	旅費補助
同上 資料代	200,000	200,000	0	学園おみやげ(お菓子など)



大・中・小科目	当初予算額(A)	補正予算額(B)	増減(A-B)	備 考
大会講習会開催費	7,300,000	7,300,000	0	
全国大会開催費	3,800,000	3,800,000	0	本部30万 支部へ350万
講習会開催費	2,050,000	2,050,000	0	関西地区研修会・夏期講習会 夏期講習会案内印刷
仏教保育研修会費	450,000	450,000	0	
支部講習会補助	1,000,000	1,000,000	0	支部、ブロックで行う講習会補助
刊行・出版費	27,500,000	27,500,000	0	
仏教保育出版費	9,000,000	9,000,000	0	約75万×12
ほとけの子出版費	1,500,000	1,500,000	0	原稿、制作費
月刊仏カリ費	17,000,000	17,000,000	0	製作、発送費
各種委員会委託	1,180,000	1,180,000	0	
仏カリ編集委員会	200,000	200,000	0	
こどものくに編集委員会	280,000	280,000	0	委員会へ
ほとけの子編集委員会	400,000	400,000	0	委員会へ
教材開発委員会	300,000	300,000	0	委員会へ
助成金支出	4,300,000	4,300,000	0	
支部助成金	2,500,000	2,500,000	0	支部へ会費10%還元
菩提樹学園助成	1,000,000	1,000,000	0	学園運営費、国際仏教興隆協会へ
各種団体提携費	800,000	800,000	0	宗派保護、保育団体・関西地区連絡協議会
社会貢献・国際交流(生命尊重)	4,300,000	4,300,000	0	
菩提樹学園助成	1,000,000	1,000,000	0	学園運営費 国際仏教興隆協会へ
義援金	1,000,000	1,000,000	0	
印刷作成費	1,500,000	1,500,000	0	ポスター、イブニング、チラシ 写真ニュース含む
募経費	800,000	800,000	0	郵便振替の手数料
各種対策費	2,300,000	2,300,000	0	
組織強化費	1,000,000	1,000,000	0	支部強化経費、支部事業助成
制度対策費	1,000,000	1,000,000	0	懇話会、顧問弁護士
養成機関連絡費	300,000	300,000	0	養成機関連絡協議会
事業雑費	1,200,000	5,200,000	Δ 4,000,000	
ホームページ運営費	700,000	700,000	0	
事業雑費	500,000	500,000	0	
名簿作成費	0	4,000,000	Δ 4,000,000	
管理費				
会議運営費	5,050,000	5,050,000	0	
理事運営審議委員会開催費	2,800,000	2,800,000	0	2回開催交通費、1月新年懇親会
総会運営費	1,500,000	1,500,000	0	総会及び5月懇親会・総会案内印刷
支部長会・参務会開催費	500,000	500,000	0	将来検討委員会
事務局運営費	250,000	250,000	0	
給料手当	4,940,000	4,940,000	0	
給料・諸手当	3,700,000	3,700,000	0	給与+通勤交通費 非常勤分を省く
賞与	940,000	940,000	0	4ヶ月
所定福利費	300,000	300,000	0	健保、年金掛金補助、労働保険
役務費	3,620,000	3,620,000	0	
旅費交通費	420,000	420,000	0	交通費
通信運搬費	1,500,000	1,500,000	0	郵券、電話等通信費
印刷製本費	300,000	300,000	0	封筒等印刷全般
什器備品費	100,000	100,000	0	事務所備品
消耗品費	200,000	200,000	0	文具等
借料損料	600,000	600,000	0	事務機器リース、コピー・ラッピングコスト
租税公課	500,000	500,000	0	法人税等
事務所費	2,930,000	2,810,000	120,000	
貸借料	2,280,000	2,160,000	120,000	事務所賃借料 18万/月
光熱水費	650,000	650,000	0	光熱水費負担金
諸謝金	400,000	400,000	0	
慶弔費	400,000	400,000	0	
事務雑費	500,000	500,000	0	
管理雑費	500,000	500,000	0	
特定預金支出				
退職給与引当金	600,000	600,000	0	
予備費	5,000,000	5,000,000	0	
当期収支差額				
差額繰越金	96,743,488	104,195,727	Δ 7,452,239	
合 計	169,513,488	180,585,727	Δ 11,072,239	



テーマ

「わが国における近代保育の始まり」

【講師】 国吉 榮 先生（白百合女子大学非常勤講師）

平成26年度 第2回 仏教保育研修会

平成27年1月20日 / 増上寺・光猷殿

平成27年1月20日、増上寺・光猷殿に国吉榮先生を講師にお迎えし、標記の研修会を開催しました。

今回は、日本で初めての幼稚園（現・お茶の水女子大学附属幼稚園）を創立し、初代監事（園長）となり、実質的かつ実践的な保育の手引書を作って幼稚園教育に大きく寄与した「関信三」という人物について語ってくださいました。関信三の足跡を辿ることで、そこから見えてくる当時の保育の背景を知り、これからの保育を考察する貴重なご提言を頂いたように思います。以下はその要約です。

関信三という人物について

関 信三（せき しんぞう）は1843（天保14）年、三河の幡豆郡一色村（現・愛知県西尾市）の真宗大谷派安休寺で6人兄弟の末子として生まれ、法名は猶龍と言いました。明治5（1872）年に明治政府の命を受けキリスト教徒に潜入します。破邪顕正（『邪を破り、正を顕す』こと）と呼ばれる活動が、キリスト教によって悪い影

響を受けるのではないかとの危惧から、キリスト教徒たちを監視するための潜入と言われています。そのため彼はスパイという汚名を着せられ、辛い扱いを受けました。その後、東本願寺の命により大谷光瑩上人に随行してイギリスに留学するのですが、現地においてもキリスト教解禁まで蝶者としての活動を続けさせられていたようです。その間のスパイ活動に関する記録は一切ありません。留学中にキリスト教が解禁になったため帰

国し、やがて東京女子師範学校の教師に就任します。

欧州滞在中に見聞したフレール教育に共鳴した関信三は、明日の日本を担う幼児に対する教育の必要性を説き、時の文部大臣・田中不二麿や東京女子師範の中村直直氏らに抜擢され、日本で初めての幼稚園を創立します。現在の「お茶の水女子大学附属幼稚園」です。

関は、明治13（1880）年に36歳で亡くなりましたが、その後の日本の幼稚園創立に大きく寄与しました。

余談ですが、彼のお墓は、四角い墓石の上に円柱を置いたような形になっています。フレールのお墓の上にも彼の幼児教育論の球体原則に因んで、球体を据え置いているのですが、これを模したものと思われれます。関信三のお墓は、谷中の真宗大谷派・宗善寺にあります。

国吉先生は、関信三の来歴をこう述べられてから、配布の資料に添って本題に入りました。

「保母」と「保育」という語の由来

『礼記』の内則に「寛裕、慈恵、温良、恭敬にして、慎みて言寡

（ことな）き者を求めて子の師と為らしむ。其の次を「慈母」とし、次を「保母」となす、とあります。初期の幼稚園教師は「保母」ではなく「保母」と書かれており、保母の養育を指して「保育」という語が使われていました。その保母も、はじめは「扶育」あるいは「補育」という字を用いられていました。これは、原典を英訳した形で日本に入ってきたためです。

関信三は、わが国で最初の幼稚園長になるわけですが、初期の幼稚園教育に関する文献のほとんどは彼が一人で翻訳したものです。その功によって東京女子師範学校の付属幼稚園の園長（当時は「監事」として任命されました。日本初の幼稚園が誕生したのです。そして就任早々、「保母養成機関」を正式な機関としてスタートさせたのです。

ここから先生は、維新後の新政府に命じられた関信三の蝶者時代、キリスト教解禁、隠遁生活などに触れていきます。やがて蝶者を解かれ、宗門からも離れ、欧米の幼児教育に関する文献等の翻訳をすることで生計を立てる道を選んだ関信三の活動に話を移していきます。

幼稚園の見直しと 保育園の誕生

明治11年のはじめ、幼稚園規則改定に伴って保育料の値上げが決定されます。関 信三は、幼児期の教育の重要性を社会に発信するため、『幼稚園は幼稚を保育するの楽園なり』という言葉を引用するようになります。そして、文部省の『教育雑誌』に「幼稚園創立法」を投稿し、幼稚園を全国に展開すべく新しい幼稚園像を提案します。「簡素な園舎と広い庭、定員48名、保母1人、保母助手4人の小規模幼稚園」と、人数なども具体的に挙げて提案しています。

関信三の死後、 幼稚園は急速に小学校化

例えば、東京女子師範学校附属幼稚園で提案した規模は、定員150人、主任1人、保母2人、保母助手2人、としています。翌明治12年には大坂府立模範幼稚園の設立を提案し、しかも無償幼稚園とすること、としています。彼の提案は具現化され、近代保育が日本に根付いていきました。

明治33年、保育の改良発達を

図ることを目的に結成されたフーレル会の会員で、幼稚園問題調査会のメンバーでもある保母たちによって、地域の子どもの発達に即した保育をするために「二葉幼稚園」が設立されました。しかし、大正4年にその保育実態が文部省令の示す幼稚園基準に当てはまらないことから、「二葉保育園」と改称されました。

保育園は「幼稚を保育するの楽園なり」とし、幼稚園教育と保育の区分がここで生まれたのです。

国吉先生による研修はここで終了しましたが、日仏保常任理事・高輪真澄先生から、「関

信三なくして日本の幼稚園教育は語れません。法名を持つ彼の波乱に満ちた短い生涯は、幼児教育の振興に賭けた壮絶な闘いでもあったようですよ」と、国吉先生の書かれた『幼稚園誕生の物語』(「蝶者」関 信三とその時代)、という著書を紹介されました。




すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社 ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp

日仏保WEBサイト 毎月更新中！

公益社団法人 日本仏教保育協会のWEBサイト(<http://www.buppo.com/>)が公益社団法人化してから、毎月更新しています。

WEBサイトをお持ちの本協会加盟園様は、リンクをお申し込みください。

【お申し込み】
e-mail: hp-info@buppo.com
園名・加盟園番号(不明の場合はこちらでお調べします)・ご自園のホームページアドレスをお知らせください。





事務局日誌

1 / 14 「仏カリ」「仏教保育」編集会議
事務局会議

1 / 20 第 8 回理事會、第 6 回運営審議委員會、第 2 回
保育研修會、懇親會

「恵方巻き」には、こんな磐余が…

2月の行事は、やはり「節分」でしょう。節分とは読んで字の如し、立春・立夏・立秋・立冬の『季節を分ける節目』を指します。

古来より、節分には「豆まき」とともに、「いわし」を食べる習わしがあったようです。「いわし」は「鯛」、つまり弱い魚と書きます。古人は、弱くて臭みが強く卑しい魚と信じていたようで、それを食すことで「陰の気を食べる」という縁起からきた風習のようです。

今一つ、節分には「恵方」に向かって「巻き寿司」を食べるという習わしがあります。江戸時代の末期、大阪の船場で商売繁盛の祈願をする風習として始まったものと言われていますが、起源は未詳のようです。この風習は一時中断されましたが、1970年代後半に大阪の海苔問屋組合が道頓堀で行ったイベントが端を発し、2003〜4年頃から全国のデパートやスーパーで販売し宣伝されたため、節分に恵方巻きを食べる習慣が急速に広がったようです。

「恵方」とは、陰陽道でその年の干支によって定められた最も良いとされる方角のことです。その彼方に「歳徳神(さいとくじん)」がいると言われていました。その恵方に向かって食べるので「恵方巻き」「恵方寿司」などと呼ぶようになったと言います。また、切らずに丸ごと食べるのは「縁を切らない」との意味を持つとのこと。更に、恵方巻きに7種類の具材を入れるのは七福神に因んで「福を巻き込む」という願いも込められているのだとか。今年の恵方は「西南西」だそうですから、その方向に向かって願い事を念じながら黙々と「恵方巻き」を「丸かじり」された方も多かったのではないでしょうか。

編集後記

■ 昨日、何気なくテレビをつけたところ、寅さんシリーズにも何度か出演された俳優の米倉斉加年氏が先輩俳優の宇野重吉氏と舞台劇で共演した時のことを懐古して話されている様子が放送されていた。舞台稽古の際、宇野氏が「もっと普通に話さない」と助言されたという。「感情を傾け一所懸命に台詞を発しているのに」と半ば反発をしたい気持ちを抱いたが、宇野氏の演技は作られた演技ではなく、自然のままの演技であり声であることに感動して言ったそうだ。■ 何かに執拗にこだわっている時、自分は自然でもなく普通でもない。自分という意識やこだわりを離れてこそ普通と言える。舞台だけでなく僕の人生にとつて「普通に生きる」は座右の銘となつている。このような話の内容であつたかと思う。普通とは何だろう。広辞苑では、かわつたことがないこと。あたりまえ、とある。私の勝手な解釈だが、普く通じるとも読める。■ さすれば、私たちの生活や生命のありようは、そもそも広くすべてに行き渡っているかと解せる。自分だけのことはかり考えているようじゃ、平々凡々の上にあつても普通とは言いえないのだから。普通に生きるとは何だろう？ 難題を突き付けられた。また今夜も眠れなくなりそうだ。(高木)

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4
ホームページ <http://www.buppo.com/>
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄 編集人 五島 満
毎月1回1日発行(1部315円)



仏教保育綱領

慈心不殺 生命尊重の保育を行なおう
仏道成就 正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進 よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしやかさま 全4巻

○おたんじょう(12場面) ○四つの門(13場面) ○おさとり(16場面) ○ねはん(12場面)

セット定価 本体¥20,000(8%税込¥21,600) ※分売不可

脚本・絵/諸橋精光 画面38.2×26.5cm 豪華化粧箱入り

保育現場や布教活動の場で幅広くご利用いただけるよう、おしやかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子どもでも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文
お問い合わせ
すずき出版